

米とのつながり

9月1日ごろは『二百十日』です。二百十日とは季節の移り変わりの目安となる「季節点」の1つで、立春を1日目として210日目の日のことです。「二百十日」は台風が来て天気が荒れやすい日とされ、ちょうど稲の開花期に当たるため、強い風が吹くと花粉が散り、実りが悪くなることから警戒したと言われていています。昔の人の生活は米と密接な関係にあったことがうかがえます。

世界三大穀物の1つである米は、日本では主食として食べる他にも白玉などのデザートや玄米茶などの飲み物などに利用されています。それ以外にも米は、米の字を分解すると

「八十八」とも読めることから、『八十八の神が宿る』や、『八十八人の働きがあって食卓に上るため、食事のたびに感謝しなければならない』などの教えとしても日本人の生活に浸透しています。

しかしながら、現代の日本では米離れが進行しています。昔から日本人に密接に関わってきた誇るべき食べ物「米」を大切にしたいものです。

